

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22320052

研究課題名(和文) 日本現存福州版大蔵経の版刻・舶載・受容展開・保管に関する総合的な基礎研究

研究課題名(英文) General fundamental researches about publication, import, reception development, the storage of the Japanese existence Fuzhou version complete canon of Buddhist scriptures

研究代表者

牧野 和夫 (makino, kazuo)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：70123081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,800,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、中国で出版され日本に輸入された福州版大蔵経について基礎的な調査をすることである。特に福州で刊行された大蔵経は、多く日本に現存している。国内の調査によって、中国での刊行の実態が解明でき、同時に日本国内の受容の状態も判明するのである。
実際に実物を手に取って調査することで、版木の状態・彫刻者・印刷者などの情報を得ることができる。日本でのみ可能な研究である。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to make a basic research on the FuZhou edition of Buddhist Tripitaka left in Japan.

Large amount of Buddhist Tripitaka published in FuZhou was imported into Japan. So we can research on Tripitaka with the original texts, and find out much information about printing blocks, carvers, typographers and so on. Based on this study, we can know the reality of the publication of Tripitaka in Chinese, and we can also reveal how it was accepted in Japan.

研究分野：日本中世文学

キーワード：宋版大蔵経 福州版 補刻 刻工 入れ木 頼賢 三聖寺 本源寺

1. 研究開始当初の背景

日本における中世以前の「文字資料」の多くは「書写(写本)」という形で現存しており、写本研究に偏る傾向が顕著であった。一切経に関する研究についても、古代、中世を通じて書写一切経に集中し重厚なものがある。特に近年の院政期から中世前期の書写一切経に関する充実した研究として、中尾堯・落合俊典・宮崎健司・斉藤俊彦・上川通夫の業績をあげることができる。

一方、奈良国立博物館「聖地 寧波」展(2009年8月30日までの会期)など、日本を含めた東アジア交流・文化史において宋版大蔵経が重要な検討課題となってきた。更に新たな動向として中国国内の関心の高まりが注目される。補刻・補修に関する詳細な比較検討のなかった頃に着手したこの研究は、版本調査の基本である刊行の時期・印刷の時期・補修の時期の識別(刊・印・修)という観点からの徹底した調査を継続して行うことで、得られるものは頗る多いことが事実である。我国現存舶載東禅寺版一切経の数セットの印造時期について先後関係の推定が可能となる筈である。

2. 研究の目的

宋版大蔵経は、東アジア史に占める位置の重要性にも拘わらず、その歴大な員数の確認と版種の識別確定が従来の調査研究の目的であった。研究代表者牧野和夫は、この10年余にわたり、日本各地の現存福州版大蔵経を訪ね、版本の基本的な識別基準「刊・印・修」に関する詳細な調査によって、中国国内での版刻の実態、日本への舶載の具体的な経緯などを解明しつつある。国内での遞藏の経緯と寺社奉納伝承の真偽、幕末明治期の流伝と保管研究など多様な課題も浮上してきた。本研究は、この個々に行われた調査の成果を更に深め、実地調査の継続・完成を目指しつつ相互に比較検討し

て、中国仏教史・書誌学・日本仏教文学・日本中世文化史などの観点から総合的に参照検討するに耐えうる基礎的な調査研究を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、宋版大蔵経調査と関連する国内・国際シンポジウム並びに研究会(共催・後援を含む)の二つが相互に機能することによって成り立つものである。

(1) 研究代表者・分担研究者・研究協力者が原則として共同で大蔵経調査を行う。

(2) その調査内容を検討し調査の進行状況を、調査後に国際シンポジウムなどに積極的に参加し、報告する。

(3) 同時に研究代表者・研究協力者は、研究目的に即応した個別の研究テーマを設定し、年一、二回程度関連する学会・研究会において報告を行う。この研究テーマは、既調査の成果を踏まえた「宋版仏書とその周辺」・時代背景・遞藏状況(近代に及ぶ)並びにその周辺などを含める。

4. 研究成果

当初計画において目標とした第一点は膨大な一切経の調書採りを2014年度まで可能な限り行うことであった。研究代表者・研究分担者・研究協力者が共同で調査したところ、既に宋版一切経のうち東禅寺版については、東寺蔵一切経(約2000帖を調査済)・本源寺蔵一切経(2004年度に全蔵調査終了)の調査により、多くの知見を得て調査項目の整備を終えた。その過程で確認できたいくつかの徴証により、我国現存舶載東禅寺版一切経の数セットの印造時期について先後関係の推定を終えたことは成果の最大のもののひとつである。

第二点は、調書採りの主要な目的である「刻工名」の蒐集であった。研究分担者野澤佳美の研究により、活字化された資料類による蒐集も進み、分析推論も提示された。その

ひとつの成果が「題記」の問題の顕在化であった。その一方で調書採り作業の進展により、開元寺版の題記への「修」が「入木」や「1行（～3行）未刷印」という形で顕在化してきた。その具体的な二、三の事例と刻工の関係などの成果を2013年の国際シンポジウム（杭州市）などで報告紹介した。また「題記1行（～3行）未刷印」と「五面一紙一板」の問題は思溪版の生成期にも及びることが明らかになった。

しかし、最大の成果は、今後の課題が顕在化したことである。「題記1行（～3行）未刷印」と「五面一紙一板」の問題などは、「題記」・「混合帖」の問題も含めて、入木や補刻葉など「修」や刻工の問題に関連してくる複合的な要素が多く、その実際の調査の質の「深化」が求められる段階に至ったことが確認できた点にある。

また、個々の蔵経の保存の課題として、保管環境の整備など多様な課題も浮上しているが、とりわけ保存保管の現状に緊急に対応策が必要となるケースもあることを確認することができ、現状保持を目的に和紙にて包み中性紙の封筒に保存するなどの対策を講じた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

牧野和夫、東禅寺版大蔵経補刻葉における刻工の一側面「刻工「牛智」「蔣成」等の組み合わせ」、実践女子大学文学部紀要、査読有、Vol 57、2015、pp1 14

牧野和夫、日本現在〔南宋〕刊『大蔵一覽集』について、実践国文学、査読有、Vol 86、2014、pp16 28

牧野和夫、日本中世鎌倉前中期の寺院における出版 - その背景と遞蔵過程の一、二の事実 -、アジア遊学、査読有、Vol 174、2

014、pp169 184

牧野和夫、延慶（本）奥書・応永書写『平家物語』四周の書物ネットワーク、実践国文学、査読有、Vol 85、2014、pp173 2

牧野和夫、日本現存資料から見た宋版大蔵経の「修」について、実践国文学、査読有、Vol 84、2013、pp31 49

牧野和夫、中世寺院資料をめぐる二、三の問題 - 伝領墨署名慶舜・泉涌寺版『四分律含注戒本疏行宗記』の底本 -、実践国文学、査読有、Vol 82、2012、pp17 25

牧野和夫、延慶（本）奥書・応永書写『平家物語』四周の書物ネットワーク「軍記物語と東アジアの仏教世界 -、軍記と語り物、Vol 48、2012、査読有、pp41 50

牧野和夫、高野山金剛峯寺蔵『四分律蔵』（宋版大蔵経ノ内）について、大東急記念文庫編かがみ、Vol 42、査読有、2012、pp1 20

牧野和夫、「思融一良舎」周辺のこと・杭州出自の宋人のこと、実践国文学、査読有、Vol 80、2011、pp45 58

牧野和夫、福州宋版大蔵経の研究 - 宋版一切経の「板五面三十行」に関する一考察 -、実践女子大学紀要、査読有、Vol 53、2011、pp1 12

牧野和夫、日本中世文学における十三世紀後末期東山白毫院・靈山周辺 書物ネットワークの視点から、実践国文学、査読有、Vol 79、2011、pp32 42

〔学会発表〕（計6件）

牧野和夫、「根来寺 四周と延慶本『平家物語』」、説話文学会、2013、於和歌山大学

牧野和夫、「思溪版大般若波羅蜜多經・沙石集について」、水門の会・東京例会、2012、大東文化大学

牧野和夫、「延慶本（元）奥書・応永書写『平家物語』四周の書物ネットワーク 東亜細亜（から）の経路」、軍記・語り物研究会大会、2011、於鶴見大学

牧野和夫、「新出宋刊細字法華経ほかをめぐって 高野山の聖教類の一端」、国文学研究資料館特定研究班第一回研究会、2011、於印刷博物館

牧野和夫、「日本中世文学の交点として

の十三世紀後末期東山白毫院・靈山周辺 書物ネットワークの視点から』、IAHR トロント大会、2010、於カナダ・トロント大学

牧野和夫、「福州版大藏経の一帖の厚さと一板一紙五面三十行」、宋版雕印研究会、2010、於上海図書館

〔図書〕(計2件)

牧野和夫 他、中国書籍出版社、2011、東亜文化的伝承と揚棄、425

牧野和夫 他、中国人民大学出版社、2010、蔵外佛教文献第十四輯、466

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

牧野和夫 (MAKINO, Kazuo)
実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：70123081

(2) 研究分担者

野沢佳美 (NOZAWA, Yoshimi)
立正大学・文学部・教授

研究者番号：80277748

高橋悠介 (TAKAHASHI, Yusuke)
神奈川県立金沢文庫・学芸員

研究者番号：40551502